

## 第323回: 血球貪食症候群を合併した成人Still病の一例

(H29.5.12)

永井 立夫 (司会・主治医, 膠原病・感染内科学),  
大島 康宏 (担当医, 膠原病・感染内科学), 犬飼 円, 高橋 博之 (病理学)

### 症例概要

症例: 74歳, 女性

主訴: 全身倦怠感

家族歴: 父; 肝硬変

嗜好歴: 喫煙; なし, 機会飲酒

### 現病歴

X年, 成人Still病 (adult-onset Still's disease; AOSD) を発症。X + 2年, X + 6年, X + 8年にAOSDの増悪で入院加療された。退院後はPSL 5 mg + MTX 4 mg/週の内服で症状は安定していた。X + 12年○月下旬ころか

ら, 全身倦怠感, 食欲不振が出現した。○月上旬の定期受診時の検査で, 血小板減少, 異型リンパ球上昇, 肝胆道系酵素上昇を認め, 入院となった。入院後, 敗血症によるDIC疑いやCMV感染などに対する治療が施行されたが, DICの増悪および全身状態の悪化が見られ, 第11病日に永眠された。

### 病理所見

1. 成人Still病
2. 免疫不全関連リンパ増殖性疾患
3. EBV感染関連血球貪食症候群

(当症例は学術誌に投稿予定のため, 抄録のみ掲載した)